

薬剤の使用に際しては、必ず商品の説明書をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。  
最新の適用病害虫名・対象作物名については、[メーカーのホームページ](#)をご参照、または、お問い合わせください。  
(こちらに掲載している内容は、2025年4月現在の内容です)

ベニカベジフル乳剤

有効成分：ペルメトリン…3.0%  
農林水産省登録 第 23948 号

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期※	総使用回数※
トマト	オンシツコナジラミ、アブラムシ類	300～450倍	100 ～ 300 mL/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	3回以内
ミニトマト					本剤：3回以内 ペルメトリン：4回以内（但し、株元散布は1回以内、散布及び噴射は合計3回以内）
きゅうり	オンシツコナジラミ、アブラムシ類、ウリハムシ	300～450倍			3回以内
ズッキーニ	アブラムシ類、フキノメイガ			収穫7日前まで	本剤：3回以内 ペルメトリン：6回以内（但し、乳剤は3回以内、粒剤は3回以内）
すいか、メロン、かぼちゃ	アブラムシ類			収穫前日まで	5回以内
なす	アブラムシ類				3回以内
	オンシツコナジラミ、テントウムシダマシ類、カメムシ類	300倍			
ピーマン	アブラムシ類	300～450倍		収穫前日まで	5回以内
	タバコガ、カメムシ類	300倍			
とうがらし類	アブラムシ類	300～450倍		収穫7日前まで	2回以内
	タバコガ	300倍			
ばれいしょ	アブラムシ類、テントウムシダマシ類	300～450倍		収穫14日前まで	4回以内
やまのいも	アブラムシ類、ヤマノイモコガ、アザミウマ類			収穫7日前まで	5回以内
さといも	ハスモンヨトウ			収穫7日前まで	

	アブ ラムシ類	450 倍			
さといも(葉柄)	ハスモンヨトウ	300 倍		2 回以内	
	アブ ラムシ類	450 倍		5 回以内	
かんしょ	イモコガ				
オクラ	ハスモンヨトウ、アブ ラムシ類、カメムシ類	300 倍		収穫前日まで	3 回以内
つるむらさき	ヨトウムシ			収穫 7 日前まで	2 回以内
食用ゆり	アブ ラムシ類	450 倍		収穫前日まで	5 回以内
食用亜麻	ヨトウガ	300 倍		収穫 14 日前まで	2 回以内
ごま	アブ ラムシ類			収穫 3 日前まで	3 回以内
しゅんぎく	アブ ラムシ類、ハクサイダニ	600 倍		収穫 21 日前まで	2 回以内
とうもろこし	アヲノメイガ	300 倍		収穫 14 日前まで	4 回以内
	アブ ラムシ類	450 倍		収穫前日まで	5 回以内
いちご	アブ ラムシ類			収穫 7 日前まで	
ごぼう				収穫 14 日前まで	2 回以内
葉ごぼう					
キャベツ	アオムシ、コナガ、アブ ラムシ類、ヨトウムシ、タナギ ソウハバ	300 倍		収穫 3 日前まで	本剤：5 回以内 ペルメリン：5 回以内（但し、株元 灌注は 2 回以内）
はくさい	アオムシ、コナガ、アブ ラムシ類、ヨトウムシ			収穫 7 日前まで	5 回以内
だいこん	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハイマ ダ ラノメイガ			300～450 倍	収穫 30 日前まで
	アブ ラムシ類				
茎ブロッコリー	アオムシ	300 倍		収穫 7 日前まで	3 回以内
ブロッコリー、 カリフラワー	コナガ			300～450 倍	収穫 3 日前まで
	アブ ラムシ類				
非結球あぶら な科葉菜類（非	アオムシ	300 倍		収穫前日まで	3 回以内

結球はくさい、みずな、なばな類を除く)					
なばな類	アオムシ、コナガ				
	アオムシ				
みずな	アブラムシ類、ダイコンハムシ、ヤサイゾウムシ	450 倍			
非結球はくさい	アオムシ	300～600 倍			
レタス	アブラムシ類、ヨトウムシ	300～450 倍		収穫 7 日前まで	5 回以内
リーフレタス				収穫 14 日前まで	2 回以内
トレビス	アブラムシ類	450 倍		収穫 7 日前まで	3 回以内
たまねぎ	アザミウマ類、ネギコガ、ハスモンヨトウ				5 回以内
ねぎ	アザミウマ類、ネギコガ シロイチモジ ヨトウ				3 回以内
にんにく	アブラムシ類	300 倍		収穫前日まで	本剤：2 回以内 ペルメトリン：4 回以内（但し、乳剤は 2 回以内、粒剤は 2 回以内）
アスパラガス	ジュウシホシクビナガハムシ	300～450 倍			3 回以内
	ヨトウムシ、アブラムシ類	300 倍		収穫 14 日前まで	
	カメムシ類			収穫 7 日前まで	
豆類(未成熟、ただし、未成熟そらまめ、さやえんどうを除く)	アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類、ウラナミジミ、アズキノメイガ、マメシクイガ	450 倍		収穫前日まで	
未成熟そらまめ				収穫前日まで	
さやえんどう	ナメグリバエ、ヨトウムシ類、ウラナミジミ			収穫 14 日前まで	2 回以内
ほうれんそう	アブラムシ類、ハクサイタニ				

だいず	マメシクイガ、ジヤガイモヒゲナガ アブラムシ			収穫 7 日前まで	3 回以内		
あずき	アズキノメイガ	300 倍					
そらまめ	アブラムシ類	450 倍					
しそ	ハスモンヨトウ、アブラムシ類、アザミ ウマ類、コナジラミ類、バッタ類	600 倍		収穫前日まで	本剤：2 回以内 ペルメリン：4 回以内(但し、乳剤は 2 回以内、粒剤は 2 回以内)		
なし	アブラムシ類、シクイムシ類	300～450 倍	200 ～ 700 mL/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	2 回以内		
	ハマキムシ類、カメムシ類	300 倍					
もも	カメムシ類			収穫 7 日前まで	6 回以内		
	シクイムシ類、アブラムシ類	300～450 倍					
	モモハモグリガ	300～600 倍					
	ハマキムシ類	450 倍					
ネクタリン	カメムシ類	300 倍				3 回以内	
	シクイムシ類、アブラムシ類	300～450 倍					
	モモハモグリガ	300～600 倍					
うめ	アブラムシ類	450 倍				収穫前日まで	2 回以内
かき	カキノヘタムシガ、チャノキイロアザミウ マ、カメムシ類	300～450 倍		収穫 7 日前まで	5 回以内		
	カキクダアザミウマ	300 倍					
キウイフルー ツ	キイロマイカガ	300～450 倍				羽化脱出期 但し収穫 14 日前 まで	
	カメムシ類	300 倍					
くり	クリタマバチ	150～300 倍		収穫 14 日前まで	6 回以内		
	クリシギゾウムシ	300 倍					
かんきつ	ミカンハモグリガ、アブラムシ類	300～600 倍					
	チャノキイロアザミウマ	300～450 倍					

	カメシ類	300 倍				
いちじく	アザミウマ類、アブラムシ類				収穫前日まで	2 回以内
	イチジクヒトリモドキ			450 倍		
はまなす(果実)	シクイムシ類	300 倍		収穫 7 日前まで		
さるなし	キイロマイカ					
アロニア	シクイムシ類	450 倍		収穫 14 日前まで		
ハスカップ	ハマキムシ類、アブラムシ類	300～450 倍	収穫 3 日前まで			
茶	チャノコカクモンハマキ	300 倍	200 ～ 400 mL/m <sup>2</sup>	摘採 14 日前まで	1 回	
	チャノミドリヒメヨコハシ、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマ	300～450 倍				
花き類・観葉植物(はぼたんを除く)	アブラムシ類	300～600 倍	100 ～ 300 mL/m <sup>2</sup>	発生初期	6 回以内	
	カメシ類、ハマキムシ類、ヨトウムシ類	300 倍				
はぼたん	アブラムシ類	300～600 倍				
	カメシ類、ハマキムシ類、ヨトウムシ類、アオムシ	300 倍				
樹木類(くちなしを除く)	ケムシ類、アブラムシ類、シャクトリムシ類	600 ～ 1200 倍	200 ～ 700 mL/m <sup>2</sup>			
くちなし	ケムシ類、アブラムシ類、シャクトリムシ類					
	アザミウマ類			300 倍		

使用方法：散布

- 2024 年 5 月 29 日付：しその変更。
- 2022 年 8 月 30 日付：なばな類、ミニトマト、しそ、非結球あぶらな科葉菜類（しろな、みずな、なばな類を除く）の変更。しろなを非結球はくさいへ統合。
- 2020 年 7 月 8 日付：非結球あぶらな科葉菜類（しろな、みずな、なばな類を除く）の追加、しろな、みずな、ほうれんそうの変更。
- 2020 年 6 月 18 日付：しろな、みずなの変更。
- 2019 年 11 月 6 日付：てんさいの削除。
- 2019 年 5 月 15 日付：キャベツ、ズッキーニ、にんにくの変更。
- 2018 年 3 月 28 日付：しその変更。

## ●効果・薬害等の注意

- 使用の際は容器を数回振ってから所定量を取り出す。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布する。
- かんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類が増えることがあるので注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所または販売店等と相談することが望ましい。

## ●安全使用上の注意

- 体調のすぐれない時は散布しない。
- 誤飲に注意。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当を受ける。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける(原液は刺激性)。
- 皮ふに付着しないよう注意。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす(原液は刺激性)。
- 散布時は農薬用マスク、手袋などを着用する。散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
- ミツバチに対する注意。
  - ①巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
  - ②ミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
  - ③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 使用後の空容器は3回以上洗浄してから処理する。

## 薬剤の使用に関する注意事項

適正かつ安全に使用していただくため基本的な注意事項をご案内します。

[薬剤の使用に関する注意事項](#)